

日本語教育における地域語教育のあり方に関する調査

エカ マレアイヌニンシ

要旨

留学生の地域生活に支障をきたしているという見解が、調査の結果、多くの地域に広がっていることがわかった。地域生活に支障をきたしている原因として、方言の理解不足や、方言の発音・アクセントの聞き取りが難しいことなどが挙げられた。また、方言の学習機会が乏しいことや、方言の重要性が認識されていないことも指摘された。

調査の結果、方言の理解不足や、方言の発音・アクセントの聞き取りが難しいことなどが挙げられた。また、方言の学習機会が乏しいことや、方言の重要性が認識されていないことも指摘された。

I. 初めに

方言とは、ある地域で話される言葉のことである。方言は、地域によって異なる特徴を持つ。方言の重要性は、地域社会のコミュニケーションに不可欠である。方言の学習は、地域の文化や歴史を理解する上で重要な役割を果たしている。

方言の重要性は、地域社会のコミュニケーションに不可欠である。方言の学習は、地域の文化や歴史を理解する上で重要な役割を果たしている。

方言の学習は、地域の文化や歴史を理解する上で重要な役割を果たしている。方言の学習は、地域の文化や歴史を理解する上で重要な役割を果たしている。

方言の学習は、地域の文化や歴史を理解する上で重要な役割を果たしている。方言の学習は、地域の文化や歴史を理解する上で重要な役割を果たしている。

表 1

広島弁の言語研究		聴解値	頻度			
			1	2	3	
1.	毎日何を(しとまん)。(していま)	20	100%	25%	20%	50%
2.	おんが時間もう(かどった)。(かていた)	18	90%	30%	25%	40%
3.	試験が(みやすい)。(やさしい)	16	80%	55%	20%	20%
4.	今ごろ花が(さいとまん)。(さいていま)	17	85%	35%	20%	40%
5.	ゆうべ獲らえながったけ、今日は(しんどい) (疲れた)	9	45%	30%	15%	50%
6.	今ごろ(ぬくい)ね。(あたたかい)	8	40%	45%	15%	35%
7.	もう(ようがさ)。(いいごほう)	14	70%	55%	20%	15%
8.	今日は学校へ(行かん)よ。(行かた)	15	75%	30%	10%	55%
9.	御飯はもう(みてた)。(たくな)。	0	0%	75%	20%	0%
10.	おんがおんがことは(せん)よ。(しな)	14	70%	35%	10%	30%
11.	もう(いぬま)よ。(帰え)	1	5%	75%	10%	5%
12.	こ、ちに(きんさい)。(来たさい)	15	75%	35%	30%	30%
13.	(はよう)勉強しんさい。(はやく)	19	95%	35%	30%	30%
14.	(うち)はも、とらん。(わたし)	13	65%	40%	10%	40%
15.	(どうしたん)の。(どうした)	17	85%	20%	40%	35%
16.	明日は絶対に雨(しけえ)。(だから)	10	50%	35%	10%	50%
17.	あのくっは(なんぼ)。(いくら)	7	35%	45%	20%	25%
18.	今(行くけん)。(行くけん)	13	65%	40%	20%	35%
19.	掃除(せんにいけん)。(しなけんは"けんない")	10	50%	35%	20%	40%
20.	今日家に(おまん)ね。(いま)	17	85%	30%	10%	50%

(4)

表から、概して、方言がよく理解できてゐることが分かる。一番理解できてゐるのは「してまん」(100%)である。こんな表現はよく使用されてゐるし、留学生もよく耳にある。次は「はよう」である。その場合は共通語として悪んばに違、ていねいから、わかりやすいと思う。「あと、た」はおまわり耳にしないと思うが、よく理解できてゐる。他は「といしてまん」の場合もしてまんに似ている。また「行かん」については否定形の言葉を悪んばによく耳にしないようだ。広島弁の否定形の場合は「ん」を付けてゐるが、関西弁では「へん」を付けてゐる。そういうのは方言の微妙なところである。つまり地域によつて表現方法が各特徴を持つてゐる。

五。アンケートによる地域語に対する態度調査

調査対象は最初の調査対象と同じだ。調査項目は10あり、自分にとつて適当な答を自由に選ばせた。今回の問題では留学生にとつて方言はどのような思ふてゐるのか、自分にとつて方言を習得するのは本当に役に立つと思ふのかを明らかにしたいと思つた。として回答にこ

- と、 a. は はい
- b. は いいえ
- c. は わからない

しかし、8番の場合は、違う回答がある。

では、今回アンケート項目と調査の回答結果は次の通りである。

	項 目	A.	B.	C.	無回答
1.	広島弁はおもしろいと思ひますか。	75%	5%	15%	5%
2.	あなたは方言を使つてゐる時、日本語の変な言葉を話さうな感じがしませんか。	25%	50%	25%	-
3.	方言が理解できれば、日本人と話をする時、役に立つと思ひますか。	60%	15%	25%	-
4.	方言が理解できれば、日本人と話す時困りませんか。	55%	20%	25%	-
5.	方言が使えたら、日本人と話をする時、実際に使ひますか。	70%	15%	15%	-
6.	方言を習ひたいと思ひますか。	60%	10%	30%	-
7.	方言を習ふ必要があつたと思ひますか。	45%	30%	25%	-

8.	日本語教室での方言と標準語の使用について あなたはどう思いますか。 a. も、ばら標準語を使い、方言は使うべきではない。 b. も、ばら方言を使うべきである。 c. 両方使うほうがよい。	50%	0%	50%	-
9.	日本人は留学生と話す時、方言で話しますか。	35%	10%	55%	-
10.	その時大阪弁は理解できますか。	55%	15%	25%	5%

Ⅱ. 各項目の検討

1. の回答について
まず、二ういう質問がある。方言の中では、初めど人なことをから目をつ
けたらよいでしょうか。と、それく興味をおぼえることがあつた。相半はも
とを言う時の、センソンの結ぶ言葉、葉ごきね。「ね」店島弁は「のう」
とが挨拶言葉、おもしろい。色々の感動大も、それから変わった音
や、音の變化、代名詞や、動詞活用のも、おもしろい。(藤原; 1977; 13)
三ういう場面を考へる。本ばらほど、方言は半ばに魅力がある。要は
あま。例えば聴解の問題からと、た言葉葉は店島弁では行かないは行か
人になり、大阪弁の場合には行かへんとなふ。それと標準語ではしなげ
たはたうないが、店島弁はせんにえいけん。それと一つの動詞活用ど
あま。だから、人な、店島弁におもしろいと、思ていふのは適切なこ
とだと思ふ。たせたら方言は各地のそれと音の発音、言葉の表現が
あまし、訛りもあるからである。

2. の回答について
この問題に對して、ほとんどのを回答していき。
一方店島全体として考へなもめ、地域話について「味がある」「深み
がある」の点では評価が高いが「きたない」「大声」「若い女性にうさわ
しくない」「乱暴」とし、かたり異な、たイメージとなす(岩波; 1977;
25)。それういうイメージがあるから方言は変な日本語なのかという疑
問にた。笑はそうおろうが。逆にこいう意見がある。
「葉は方言を決して悪いとは思わぬ。むしろ標準語は一つの方言だ
と三う教へていふ位である。標準語は美しい方言がたないという物
の考へ方は明らか。一つの差別ではないがとさと思ふ、こいふ。あま時
方言は素敵に美しい。それと標準語より明らか。是深心理のひだまど
表現し、得まこことがあま」(小野; 1991; 108)
この考へ方によまると、決して方言は変な日本語では言えない。標準
語の中にある言葉が表現することたせなげれば、方言で表現せま
まはがである。例えれば挨拶の言葉は、「わば生活の基、半ばから、地方
色が豊かに表わら表現の一つである。それと之は方言は特殊な機能

(6)

を持。ていふし、価値がめま言葉めめる。だがうこま変な言葉だとはい
言えない。日本語の中で、と自然の美しい言葉には、こころのど
はなないださうが。

3の回答について
日本語に、こころがしづかぬ慣れをた地域を離れて新しい地域に移、た
初使用として、こころがしづかぬ慣れをた地域を離れて新しい地域に移、た
言葉が通じないといふこと、こころがしづかぬ慣れをた地域を離れて新しい
習得した言葉は、こころがしづかぬ慣れをた地域を離れて新しい地域に移、た
いけむら生かす、中、こころがしづかぬ慣れをた地域を離れて新しい地域に移、た
人、よく、こころがしづかぬ慣れをた地域を離れて新しい地域に移、た
うし、こころがしづかぬ慣れをた地域を離れて新しい地域に移、た
に相違ない。

4の回答について
この問題について、夕番目と関連して、日本語も、こころがしづかぬ慣れをた
よむこと、こころがしづかぬ慣れをた地域を離れて新しい地域に移、た
いけむら生かす、中、こころがしづかぬ慣れをた地域を離れて新しい地域に移、た
ようだが、こころがしづかぬ慣れをた地域を離れて新しい地域に移、た
て、困ること、こころがしづかぬ慣れをた地域を離れて新しい地域に移、た

5の回答について
外国人が、こころがしづかぬ慣れをた地域を離れて新しい地域に移、た
無理だと言えない。むしろ、日本語も、こころがしづかぬ慣れをた地域を離れて新しい地域に移、た
だが、生活で自然に、こころがしづかぬ慣れをた地域を離れて新しい地域に移、た
さうに、こころがしづかぬ慣れをた地域を離れて新しい地域に移、た
一つ、こころがしづかぬ慣れをた地域を離れて新しい地域に移、た

6の回答について
み人な習い、こころがしづかぬ慣れをた地域を離れて新しい地域に移、た
さ、こころがしづかぬ慣れをた地域を離れて新しい地域に移、た
か、こころがしづかぬ慣れをた地域を離れて新しい地域に移、た
確かに、こころがしづかぬ慣れをた地域を離れて新しい地域に移、た

9の回答に ついて
 この回答は、日本人は時々方言を話し、という回答は55名あり、やはり、教室の中でとかが、外国語を話す時、日本人は留学生に付して、どことば標準語を使っているが、ついでに方言をしゃべることもあつた。日本人の母国語だから、気がつかないこともあつたと思う。

10の回答に ついて
 この問題は9番目と関連して、もし相手が方言をしゃべるとしたら、実際に理解できるのかわりと、理解できない人によつて、日本語学習歴が違つてくる。それと考慮しなくてはならないと思う。まして、多分、日本人が特に若い人は普通に使っている方言は留学生にとつて難しくないと思つていい。しかし、年齢の人間が使っている言葉だ。たう、わかると可能性は少ないと思つた。たゞなう日本人の若い人の中にもわかると言つた人があつた。これも、単純な言葉に限られると思つた。しかし、自分が留学生として、地域語を理解するのは非常に魅力的なことだと思つた。

Ⅱ. まとめ
 一般的に教室で使用される言葉は標準語であるから、標準語はコミュニケーションのたぐひに非常に重要なものである。だからこれを留學生もまづ標準語を学ぶのがよい。その上に標準語と英語との通じやすさが高い。しかし、実際の生活の中で通じない可能性も出てくるかもしれない。地元の人々との交流する場合、地元の人はいざ地域語を使つてもいいと思つた。だから標準語の次に英語ができれば地域語も習つたほうがいいと思つた。とうして、各地域語も習得することが必要で、生活もなるべく進むことが必要である。各地方語と言へばコミュニケーションのたぐひの便利さや必要さがある。そして、地域語が理解できれば、実際に使えるのがとても便利であると思つた。そして、地域語が理解できれば、実際に使えるのがとても便利であると思つた。だから、地域語も習得したいと思つた。とうしたら、地域語に付して異文化感が段々なくなつて、アンケートによつて留學生は方言に付して興味も持つていくやうだ。たゞなう言葉は文化の鏡であるから、文化の貴い人々を尊重する態度で、方言を学ぶことも必要だと思つた。そして、若い世代に方言を教えることも必要だと思つた。

とこの標準語教育と地域語教育の考察を進めていくにあたり、この課題はたくさんある。あくまでも標準語は日本語教育として、最優先とすべきであるが、実際に日本で生活する以上地域語教育は必要不可欠になりつつあるのとは異なる。また地域語教育にどのくらい力を入れますか、そのバランスなど、さまざま。今後、標準語教育と地域語の現状を更に深く分析し、それぞれその意義を考察し、これからの標準語教育と地域語教育のあり方はどうあるべきかがつきつめて考えていきたいと思います。

参考文献

1. 岩波講座 (1977) 「日本語の方言」 岩波書店
2. 平山輝男 (1990) 「日本の方言」
3. 徳川宗賢編 (1979) 「日本の方言の地図」
4. 町 博光 (1992) 「今どき けえ 広島弁」
5. 藤原久一 (1977) 「方言学の方法」
6. 小野光一 (1992) 「北海道方言の現在」 日本語教育 70号

付記。指導教官のご協力のおかげで厚く御礼申し上げます。
また留学生センターの先生と留学生にも御礼申し上げます。